論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博　士　（　教育学　）	氏名	三　吉　　愛　子
学位授与の要件	学位規則第４条第[1]・２項該当		

論　文　題　目

幼稚園教育実践の「会集」に関する史的研究
―明治期開設仏教系幼稚園の史料を中心に―

論文審査担当者

主　　査	教　授	七木田　敦
審査委員	教　授	丸山　恭司
審査委員	教　授	山田　浩之
審査委員	教　授	中坪　史典

〔論文審査の要旨〕

本論文は，現代の日本の幼稚園で毎朝行われているお集まり（朝の会）に着目し，その起源である「会集」が，我が国の幼稚園の始まりである東京女子師範学校附属幼稚園を中心に，歴史的背景によりどのように変容を遂げ，如何なる内容であったのか，地方の史料も取り上げて解き明かすことを目的としたものである。史料については，岡田正章の他には日本の幼稚園教育史の研究者に未だ言及されていない山口県の幼稚園の保育日誌を分析対象として，保育実践レベルの観点から明らかにしている。

論文の構成は，次の通りである。

序章では，本研究の問題の所在として，地方の幼稚園における保育日誌などの一次史料に基づく幼児教育の展開過程や幼稚園の背景の検討が進んでいない点を，先行研究の知見の整理と意義から見出し，幼稚園教育史研究で触れられていない幼稚園の教育実践内容「会集」について，研究の余地があることを指摘した。

第１章では，幼稚園教育実践における「会集」へ焦点化することを目的として、現在までのフレーベル主義幼稚園の歴史研究について行われてきた研究内容を明らかにし、現代の日本の幼稚園で保育内容としては位置づけられていない毎朝行われている活動の「お集まり（朝の会）」の歴史について着目することの意義を論じている。

第２章では，東京女子師範学校附属幼稚園を我が国における「会集」の始まりとして，その時代の歴史的変遷とともに幼稚園規則の改訂を繰り返しながら，全国の幼稚園に浸透してきた日本の幼稚園教育史における「会集」の目的や内容を論考している。1899（明治32）年の「幼稚園保育及設備規程」で「会集」は，保育内容の項目の中に入れられなかったが，それ以降も保育の現場において重視され、園の教育理念を幼児たちに伝えるのに適切であるとして，大正・昭和になってからも「会集」を推奨するものも多く、子どもと保育者の毎日の生活の繰り返しの中で，幼稚園独自の文化としての位置づけが確立されていったことが示された。

第３章では，山口県における明治期開設の華浦幼稚園の史料による分析を行うために，その史料を保存されていた山口県の幼稚園の歴史について我が国の幼稚園のはじまりとの関係を明らかにしている。その上で、明治期の山口県地方における幼稚園教育の歴史に

関する研究の意義を見出している。主に中央と山口県地方との繋がりを解明し，日本で初めての仏教系華浦幼稚園の設立へ影響を与えた様々な要因が示された。さらに，明治政府の近代化政策のなかで，欧米の進んだ文化導入の一環として海外から取り入れられた東京女子師範学校附属幼稚園設立に関係した人々と，山口県防府市にある明治期開設の仏教系幼稚園関係者との影響と繋がりを明確化し，本研究対象の意義と必要性が示唆された。

第４章では，明治期から大正期の仏教系私立華浦幼稚園の保育日誌の解読から，断片的にしか明らかにされていなかった大正期の仏教系幼稚園の教育実践内容の実際と「会集」の位置づけを明確にしている。併せて華浦幼稚園ではフレーベル主義幼稚園として設立された東京女子師範学校附属幼稚園の保育内容も取り入れつつ，また時代の潮流にも敏感に反応しながら，仏教（浄土真宗）を基盤とした独自の教育実践を進めていることが特徴として明示された。

第５章では，仏教系華浦幼稚園の保育日誌から明らかになった「会集」について特に熱心に記載されていた 1922(大正 11)年度一ノ組の保育日誌を主たる分析対象とし，その具体的内容と宗教性(宗教的実践)を明らかにすることで，カテゴリー化された用語頻度から「礼拝」に通ずる関連用語,「説法」への関連する用語，仏教行事の関連用語，宗教による祖師との直接的関連用語などを導き出し，その特色を示している。また，保育日誌の丁寧な読み解きにより保育者と子どもの会話や保育者の子どもに向ける宗教的信念も示唆された。現代の幼稚園・保育園に祀られている聖徳太子像との繋がりも明らかにし、「会集」の時間による宗教的信念や徳育主義による仏教系幼稚園の特色を導き出している。

終章では，以上の研究を総合し、現代の幼稚園で全員が揃い再会を喜び合う共感的な会合の場としての機能を目的とした「お集まり(朝の会)」の起源である「会集」の目的の変遷について、日本の創成期における幼稚園教育の姿を保育実践レベルで論考した。

本論文は，次の３点で高く評価できる。

1．我が国の幼稚園をはじめとする保育の場で行われている朝の会（お集まり）の起源である「会集」の目的と内容の歴史的変遷を明らかにし、「会集」という名前はなくなりながらも，現代の日本の幼稚園・保育園で行われている全体集会やお集まり（クラス単位での朝の会・モーニングサークル等）に通ずる活動として，変容を遂げ儀式として存続してきたことが示された。

2．岡田正章の他には日本の幼稚園教育史の研究者に未だ言及されていない山口県の幼稚園の保育日誌を分析対象として，仏教系幼稚園の宗教儀礼を中心とした徳育上の教育効果を重んじた「会集」の時間の内容について保育実践レベルの観点で明らかにした。

3．我が国の幼稚園の教育実践内容「会集」の歴史的変遷と地方の仏教系幼稚園における大正期の「会集」の具体的内容が明らかとなり，明治期より続いてきた日本の幼稚園の歴史の一端が「会集」に現れていることが示唆されたことで、現代の日本の幼稚園の「文化」としての教育実践の実現に寄与すると考えられた。

以上，審査の結果，本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和　6 年　2 月　14 日